

# 鳥取県東部農業の概要



新甘泉

令和3年6月

鳥取県東部農林事務所

## 目次

I	東部地区(鳥取市、岩美町)農業の概要	1
1	現状と課題	1
	(1) 農地の状況	
	(2) 担い手・新規就農者の状況	
	(3) 農業生産の状況	
	(4) 鳥獣害の状況	
	(5) 農地等保全活動(日本型直接支払制度)の状況	
2	今後の方向	3
II	農地	5
1	土地利用の状況	5
2	耕地面積	5
3	農業基盤の整備状況	6
4	荒廃農地の状況	6
5	担い手への集積農地面積の動向	7
III	農家・農業者の状況	8
1	農家戸数	8
2	農業者数	8
3	農業者年齢	9
4	認定農業者数	10
5	新規就農者数	10
6	集落営農組織数	11
IV	主な農畜産物の生産、販売状況	12
1	水稲	12
2	らっきょう	13
3	白ねぎ	14
4	アスパラガス	15
5	梨	16
6	柿	17
7	乳用牛	18
8	肉用牛	19
9	豚	20
10	鶏	21
V	鳥獣害の状況	22
VI	日本型直接支払制度の取り組み概要	23
1	多面的機能支払交付金(農地維持)	23
2	中山間地域等直接支払交付金	23
3	環境保全型農業直接支払交付金	24
VII	集落営農法人一覧	25

## I 東部地区(鳥取市、岩美町)農業の概要

東部地区は、鳥取市と岩美町の1市1町をエリアとしている。

鳥取市は、平成16年に1市6町2村(旧鳥取市、国府町、福部村、河原町、用瀬町、佐治村、気高町、鹿野町、青谷町)が合併し、広域エリアを管轄している。県内最大の人口18万5千人(令和3年5月31日現在)を有し、鳥取砂丘や湖山池など美しい自然に恵まれている。岩美町は、人口1万1千人(令和3年6月1日現在)で、山陰海岸国立公園の景勝地を有し、農業、漁業を中心とした自然豊かな町である。

なお、八頭町、若桜町、智頭町については、東部農林事務所八頭事務所が対応している(ただし、地域整備関係及び農地転用許可等は当事務所が所管)。

### 1 現状と課題

- ・東部地区は水田が多く、「コシヒカリ」「ひとめぼれ」「きぬむすめ」といった良食味米の生産に加え、新たな品種として「星空舞」の栽培が開始された。また飼料用稲(WCS)や飼料用米(日本晴)の生産も盛んに行われている。
- ・果樹は、傾斜地において二十世紀梨を中心に栽培されていたが、生産者の高齢化等により栽培面積が減少傾向であった。しかし、近年、県育成新品種「新甘泉」や柿の「輝太郎」の栽培面積が増加している。また、ブドウの新植団地が1ha造成された。
- ・砂丘畑では、らっきょうが有名で平成28年3月にG I(地理的表示)を取得し、ここ数年の販売額はおおむね10億円を維持している。
- ・水田転作作物として、白ねぎが定着しており、さらに中山間地域の特産物としてアスパラガスを推進している。
- ・イチゴの県育成品種「とっておき」の生産が新規農業参入法人を中心に増加している。

#### (1)農地の状況

○耕地面積は年々減少しているが、荒廃農地は近年、増加傾向にある。これは、荒廃農地の解消を図る施策により農地としての再生利用を進めているものの、高齢化による荒廃のスピードが速いためと考える。また、中間管理事業の活用など担い手への農地集積は年々増加しているものの鈍化してきており、さらに加速化させることが必要である。

耕地面積 7,909ha (H27年) ⇒ 7,739ha (R2年) △170ha

荒廃農地面積 169ha (H27年) ⇒ 217ha (R2年) 48ha 増

#### (2)担い手・新規就農者の状況

○農業就業人口は減少が続き、また高齢化が進むなど、農業労働力は脆弱化してきている。

農業就業人口 7,942人 (H22年) ⇒ 6,534人 (H27年) 82.2%

平均年齢(県) 68.3歳 (H22年) ⇒ 69.7歳 (H27年) 1.4歳上昇

○認定農業者は平成20年をピークに近年減少傾向である。地域農業を担う集落営農組織は増加していたが近年横ばいとなっている。認定農業者の減少は、高齢化等の理由で再認定を受ける者が減少したものと考えるが、一方で法人の認定は増加している。

認定農業者数 154 (H17) ⇒ 171 (H20年) ⇒ 135 (R2年)

集落営農組織数 78 (H27年) ⇒ 83 (R2年)

うち法人数 20 (H27年) ⇒ 23 (R2年)



騰し、生産者の増頭意欲が高まり、県の導入事業等により雌牛頭数が増加した。肉用肥育牛も平成30年3月に建設されたいかり原牧場の効果により令和2年度は前年度から増頭している。

#### (4) 鳥獣害の状況(R2)

- ・被害額：イノシシ 30,632千円、シカ 2,876千円、その他 3,410千円 計 36,918千円
- ・捕獲頭数：イノシシ 4,112頭、シカ 2,987頭、ヌートリア 501匹、アライグマ 19頭、カラス 307羽等

#### (5) 農地等保全活動(日本型直接支払制度)の状況(R2)

##### ○多面的機能支払交付金(農地維持支払)

活動組織数 143(前年より7減)、保全活動面積 3,315ha(前年より24ha減)。農振農用地面積に占める割合は 54.2%。

##### ○中山間地域等直接支払交付金活動

活動組織数 118(前年より28減)、保全活動面積 956ha(前年より150ha減)。農振農用地面積に占める割合は 15.6%。

## 2 今後の方向

### 【県農業生産1千億円達成プランの推進】

○県は、10年後の県農業の維持・発展に向けて平成27年3月に策定した農業活力増進プランを平成30年3月に改訂し、10年後の令和10年に農業生産1千億円達成を目指し、県下一円で取り組んでいく。

(プランの基本方針)

- ・10年後を支える多様な担い手が活躍できる環境を整えます。
- ・産地力をアップし、農業所得を高めます。
- ・「食のみやこ鳥取県」の魅力を国内外に発信します。
- ・地域の農業を元気にし、農とともに生きる鳥取県を実現します。

#### (1) 新規就農者、担い手の育成

○アグリスタート研修など新規就農者に対する支援施策の充実により、次世代を担う農業者は徐々にではあるが増えていることから、今後とも新規就農者への支援を強化する。

○東部は水田地域であり、水田農業を維持していくためにも、地域ごとに策定された「人・農地プラン」の充実とその実施を図る。また、農地中間管理事業などの活用により、担い手への農地利用集積を促進するとともに、大規模経営体や集落営農組織(法人)の育成を図る。

#### (2) 水田農業の複合経営推進

○収量・品質が期待できる「きぬむすめ」及び県育成の新品種「星空舞」の作付けをさらに推進する。

○水田農業の複合経営を推進し、所得の安定化を図るため、次の2品目を重点的に推進する。

〔白ねぎ〕

・らっきょうに次ぐ特産物として、平成25～30年度にJA鳥取いなばが「いなば白ねぎ倍増プラン」を実施し、栽培面積は徐々に増えた。さらに栽培推進中であり、品質が良く安定的に収入が期待できる白ねぎの振興を図る。

〔アスパラガス〕

・白ねぎに加え、中山間地域の特産物として市場からのニーズも高いアスパラガスについて、普及所、JAなどが中心となって雨よけ栽培等の推進や安定多収の栽培マニュアルを作成し、国・県事業を活用して、市町も含めたプロジェクトとして生産拡大を図る。

### (3)園芸品目の新たな取り組み

○らっきょうについては、切り子不足対策として令和2年度に洗いらっきょう根葉切機を開発し、16台が導入された。機械の活用と導入を推進し、出荷調整の省力化を図る。

○梨については、販売単価が高い新品種の「新甘泉」、「秋甘泉」の生産拡大を図るため、栽培作業の省力化に向けてジョイント栽培などの技術を推進する。

また、優良果樹園を次の世代に残していくための取組を行う。

○柿の新品種である「輝太郎」も、早生で販売単価が高いことから、生産拡大を図る。

○ぶどうについては、地元からの強い要望で令和2年度に1.0haの新植団地が整備された。JA、市、県が一体となって国・県事業活用して雨よけハウス等の施設整備を推進する。

○県育成品種のイチゴ「とっておき」は本県の気象条件においても多収・高品質な品種として育成され、栽培面積が増加している。また、新たな参入法人が「とっておき」を中心に大規模な生産を開始するなど、県事業等を活用して生産が増加している。

### (4)畜産の振興

○和牛繁殖雌牛の増頭により繁殖基盤を強化し、白鵬85の3等県有高能力種雄牛を交配することで高品質牛肉の増産を図る。

○酪農では、水田を活用した自給飼料の確保に努めつつ大規模酪農場を核として、安定した生乳生産による収益性の高い畜産経営に取り組む。

### (5)農地・水路等保全活動、鳥獣被害対策の推進

○農業農村を維持していくために、地域で農地・施設等の維持保全や鳥獣被害対策のための活動を今後とも推進する。特に中山間地域での活動を増加させる。

○さらに、水を供給するため池、頭首工、幹線水路など主要な水利施設の老朽化に対して補修、更新などを推進する。また、農地の排水改良を進め、多様な農業への取り組みや担い手の農地・水管理の省力化を進める。

### (6)ため池防災体制の整備

近年頻発している豪雨災害に備え、防災重点ため池を中心にため池管理者との連絡体制及びびハザードマップを整備するとともに、ため池の防災工事等を集中的かつ計画的に推進する。

## II 農地

### 1 土地利用の状況

田、畑率は9%と、県全体の10%とほぼ同等である。また、林野率は73%と、県全体の74%とほぼ同等である。

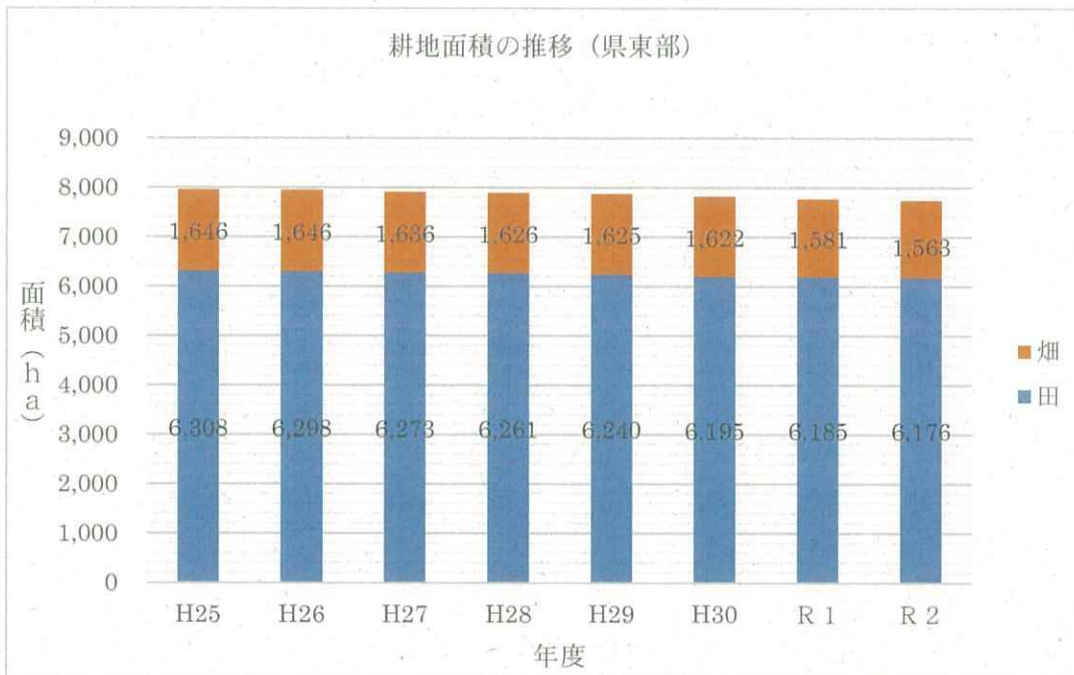


田・畑…令和2年農林水産省統計部「耕地面積調査」

林野・その他・計…令和元年度版（30年度データ）鳥取県林業統計

### 2 耕地面積

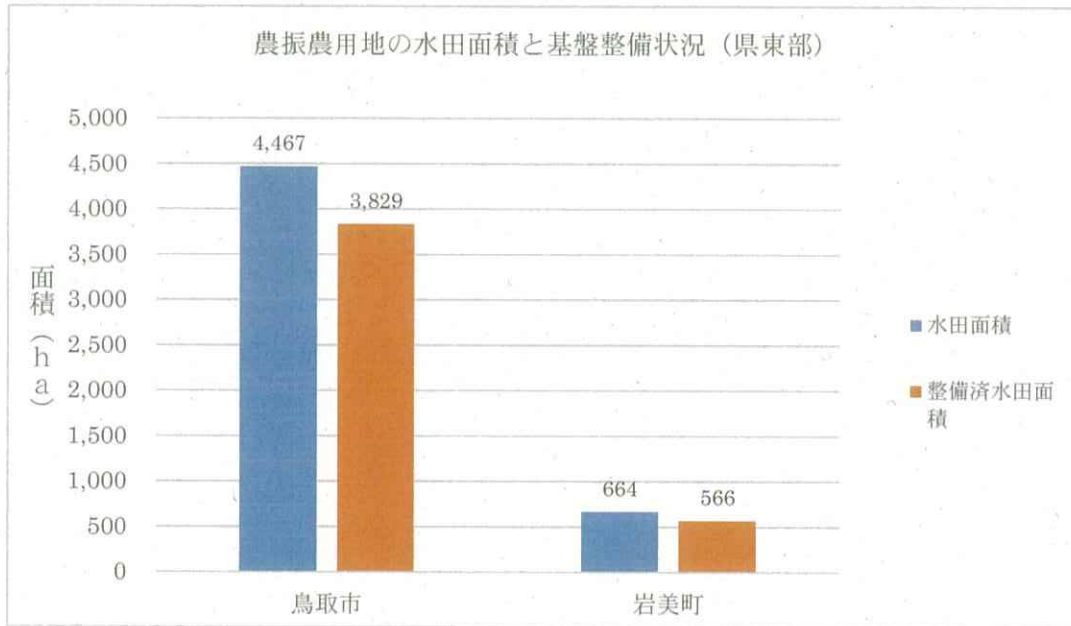
県東部の耕地面積（水田+畑 畦畔含む）は、7,739haで県全体の23%を占める。



令和2年農林水産省統計部「耕地面積調査」

### 3 農業基盤の整備状況

県東部の水田整備率は、鳥取市 85.7%、岩美町 85.2%である（鳥取県平均 85.6%）。



令和2年度までの整備済面積（見込）

鳥取県農地・水保全課調べ

### 4 荒廃農地の状況

荒廃農地面積は増加傾向にあり、令和2年度時点で217haとなっている。内訳は、水田が175haと80.6%を占め、残りは畑の42ha（19.4%）となっている。

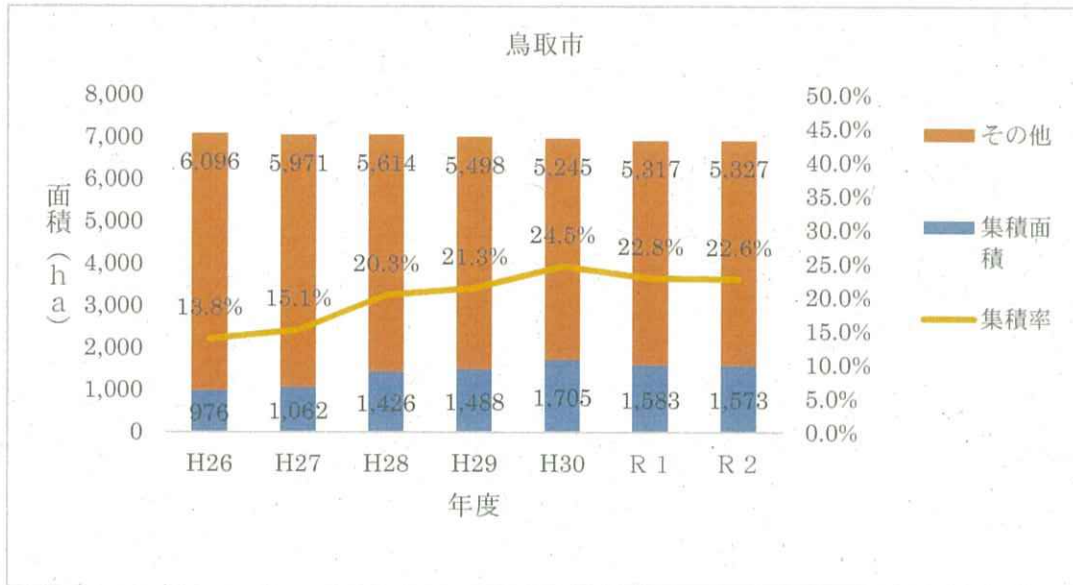


各年度荒廃農地の発生・解消状況に関する調査（農林水産省）

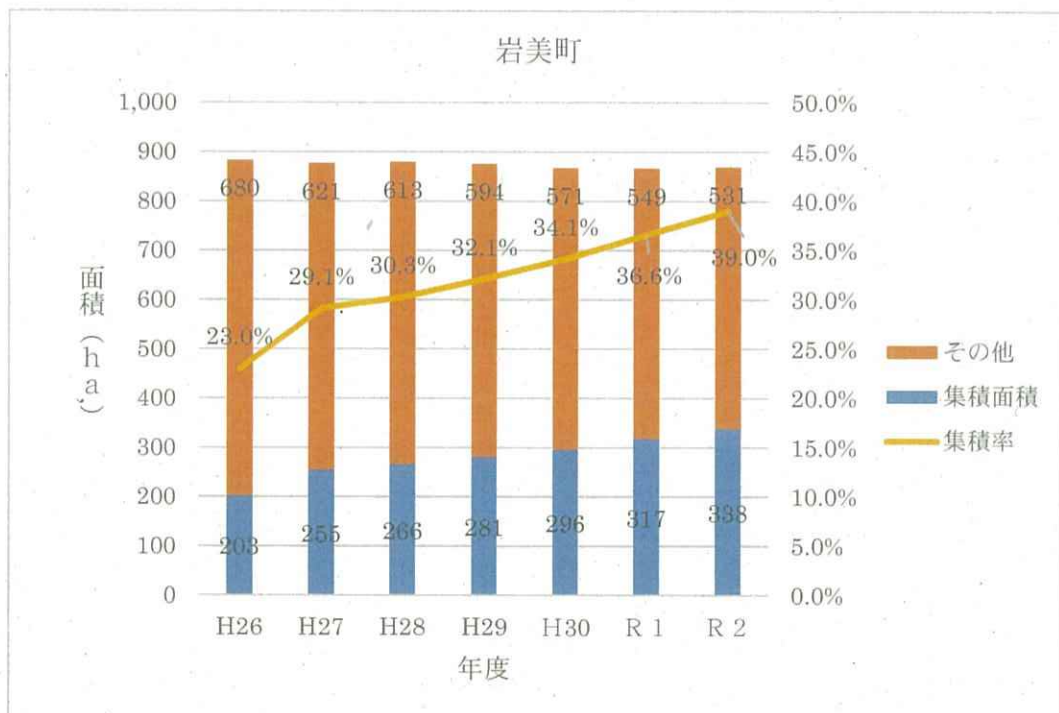


## 5 担い手への集積農地面積の動向

令和2年度の集積率は、鳥取市 22.6%と前年度から微減し、岩美町 39.0%と年々上昇している。



資料：担い手の農地利用集積状況調査 (H26～R2)

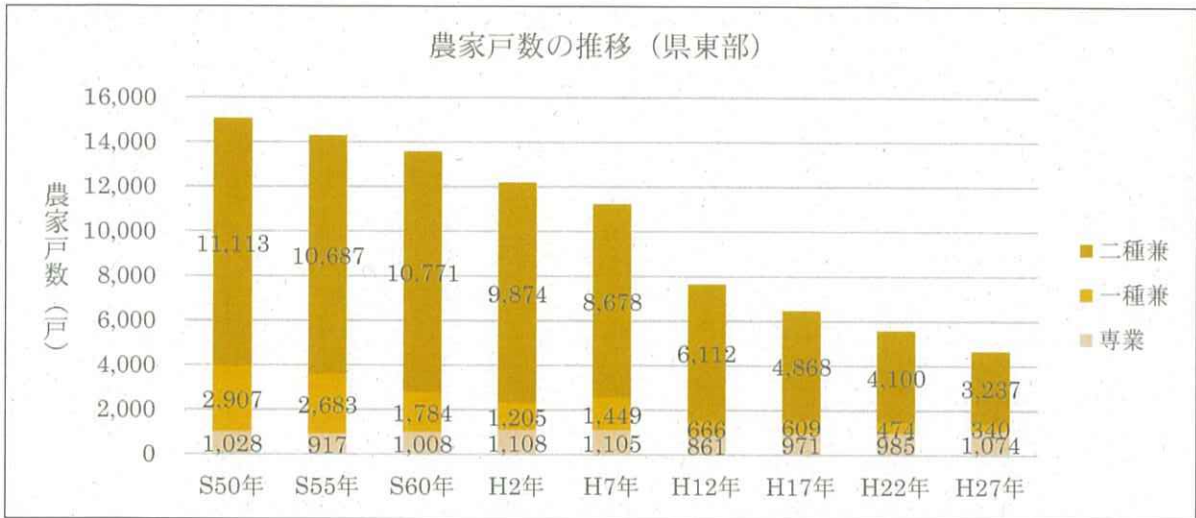


資料：担い手の農地利用集積状況調査 (H26～R2)

### Ⅲ 農家・農業者の状況

#### 1 農家戸数

鳥取県東部の農家戸数は年々減少しているが、専業農家戸数は近年回復傾向にある。



世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報

注1) 専業農家：世帯員のうちに、自営農業以外の兼業従事者が一人もいない農家をいう。

第1種兼業農家：農業と兼業とを比べて、農業所得を主としている兼業農家をいう。

第2種兼業農家：農業と兼業とを比べて、農業所得を従としている兼業農家をいう。

#### 2 農業者数

農業就業人口は減少を続けており、平成27年は平成22年と比較して18%減少している。

農業就業人口のうち、基幹的農業従事者数は減少率が比較的ゆるやかであり、平成27年は平成22年と比較して11%の減少となっている。



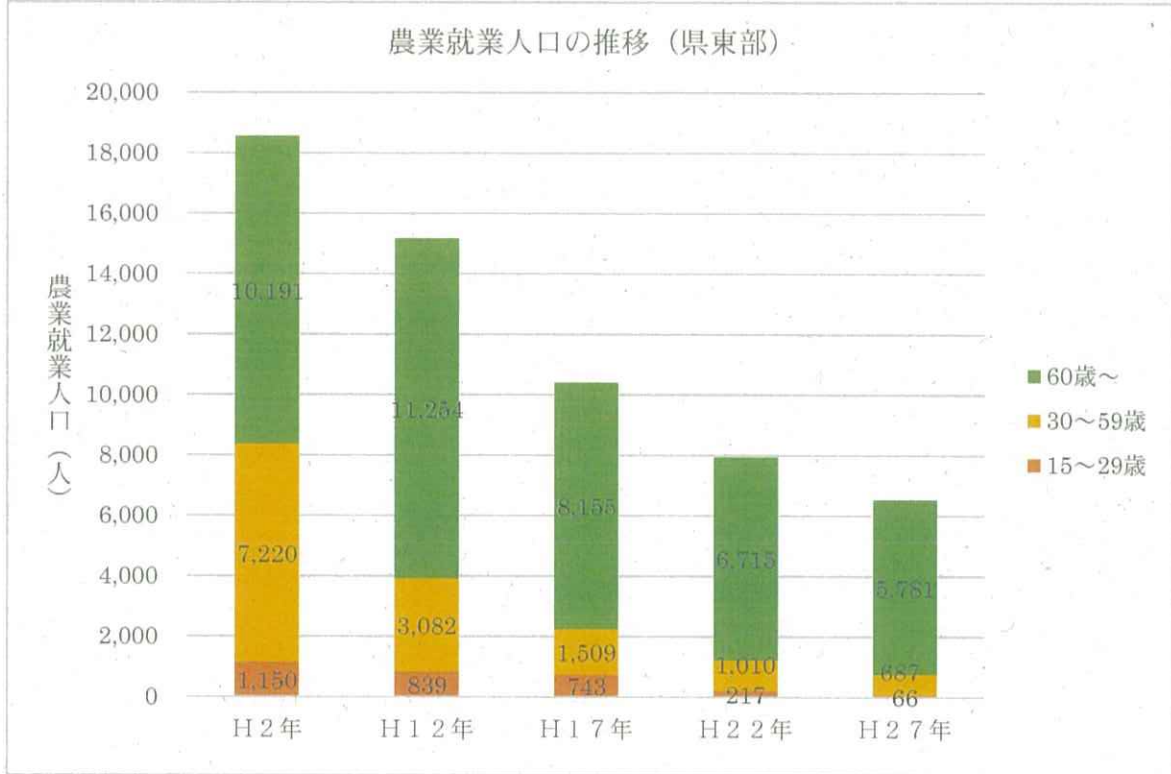
世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報

注1) 農業就業人口：「農業のみに従事した世帯員」及び「農業と兼業の双方に従事したが、農業の従事日数の方が多い世帯員」のことをいう（15才以上）。

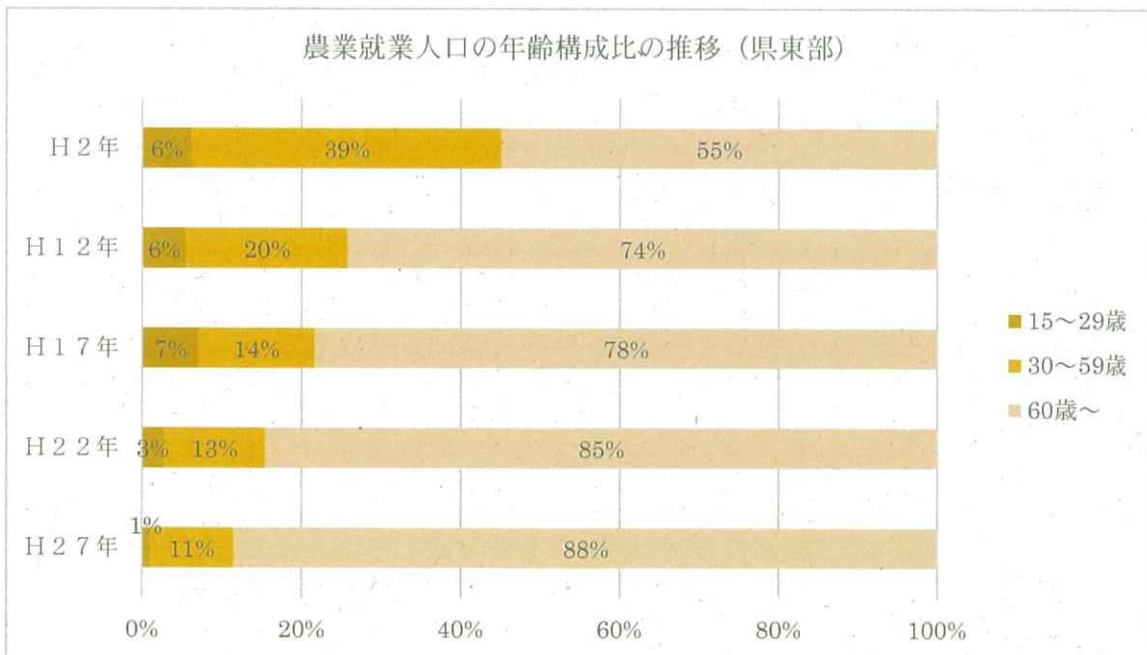
注2) 農業就業人口のうち、普段の主な状態が「仕事に従事していた者」のことをいう。

### 3 農業者年齢

農業就業人口の年齢構成は、1985（昭和60）年では、15～59歳が39%を占めていたが、2015（平成27）年では、15～59歳が11%、60歳以上が88%を占めている。



世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報

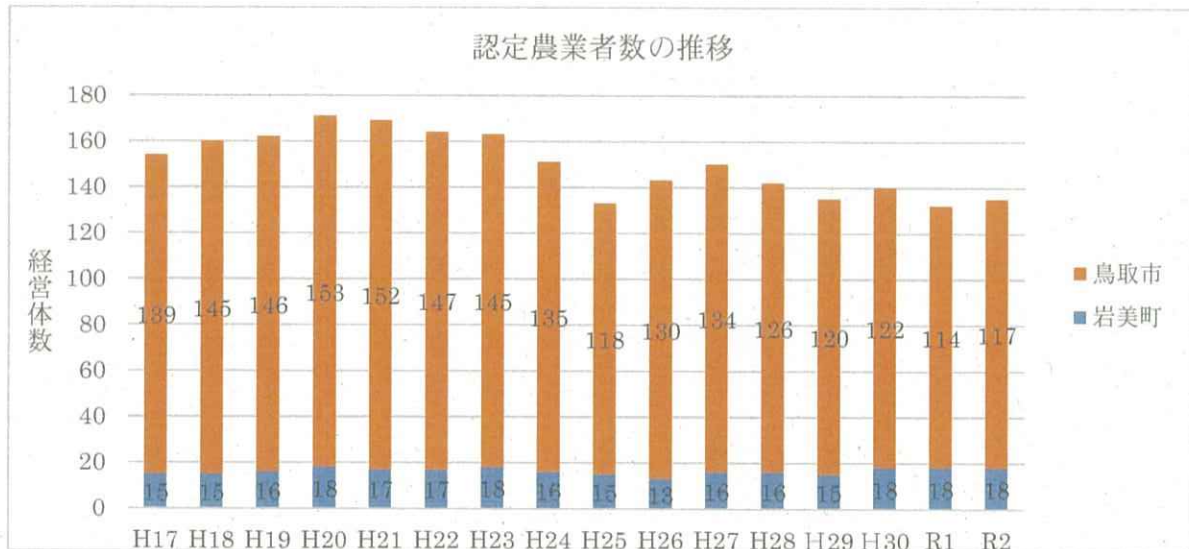


世界農林業センサス(農業センサス)、鳥取農林水産統計年報

#### 4 認定農業者数

県東部の認定農業者数は平成20年度の171経営体をピークに減少傾向にあり、平成26年度以降増加と減少を繰り返しており令和2年度は前年度から増加した。

法人の認定農業者数は増加傾向が続いており、平成17年度の18経営体から令和2年度の59経営体へと41経営体増加した。

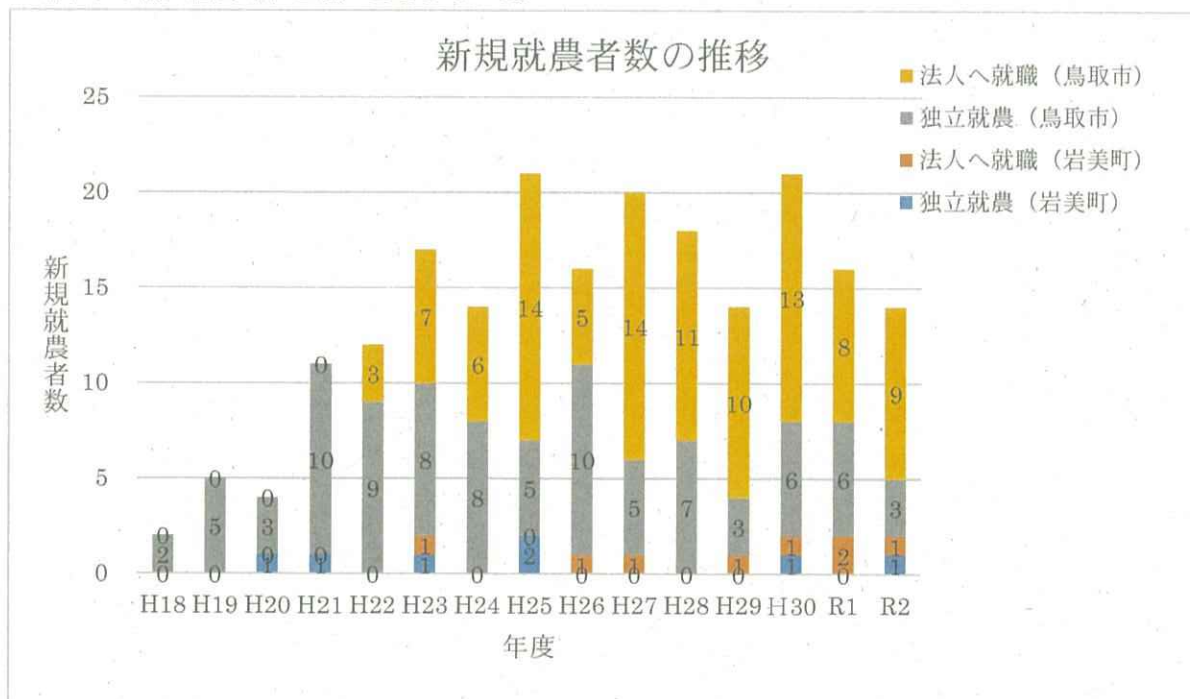


鳥取市、岩美町調べ(各年度末時点数値)

#### 5 新規就農者数

平成21年以降、全県的に農の雇用事業の活用等により、新規就農者が増加している。

令和2年の新規就農者数は14名(うち、鳥取市が12名、岩美町が2名)となっている。そのうち、法人等への就職者は12名(うち、鳥取市が9名、岩美町が1名)、独立自営就農者は4名(うち、鳥取市が3名、岩美町が1名)となっている。



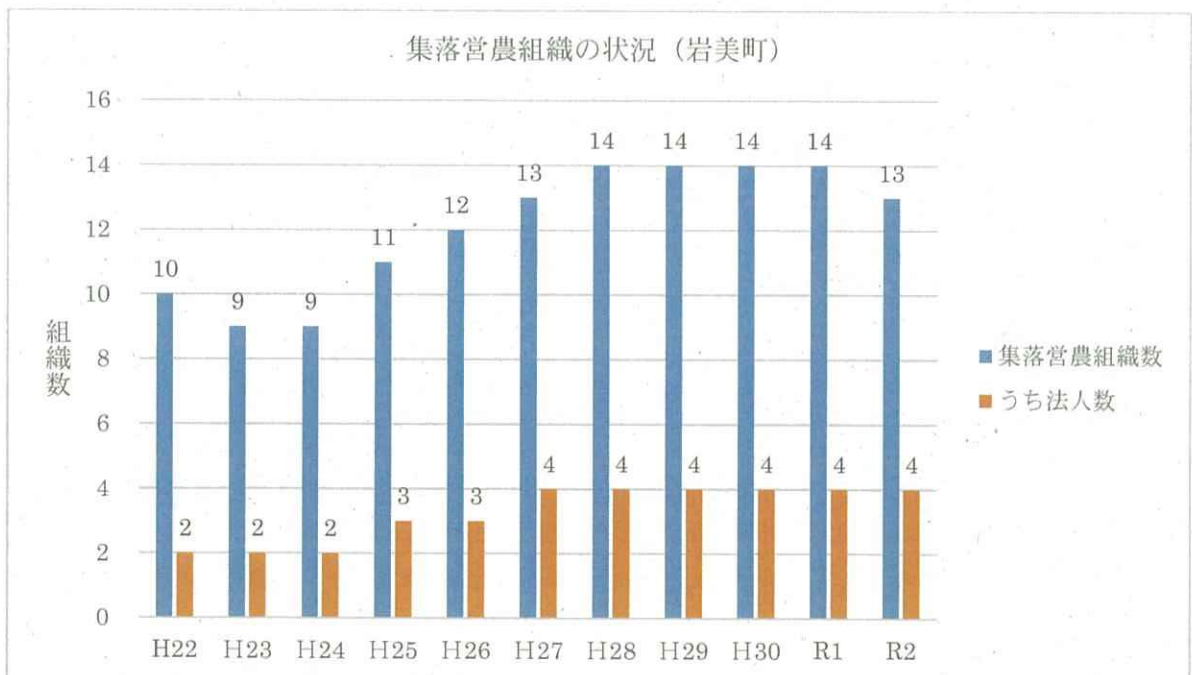
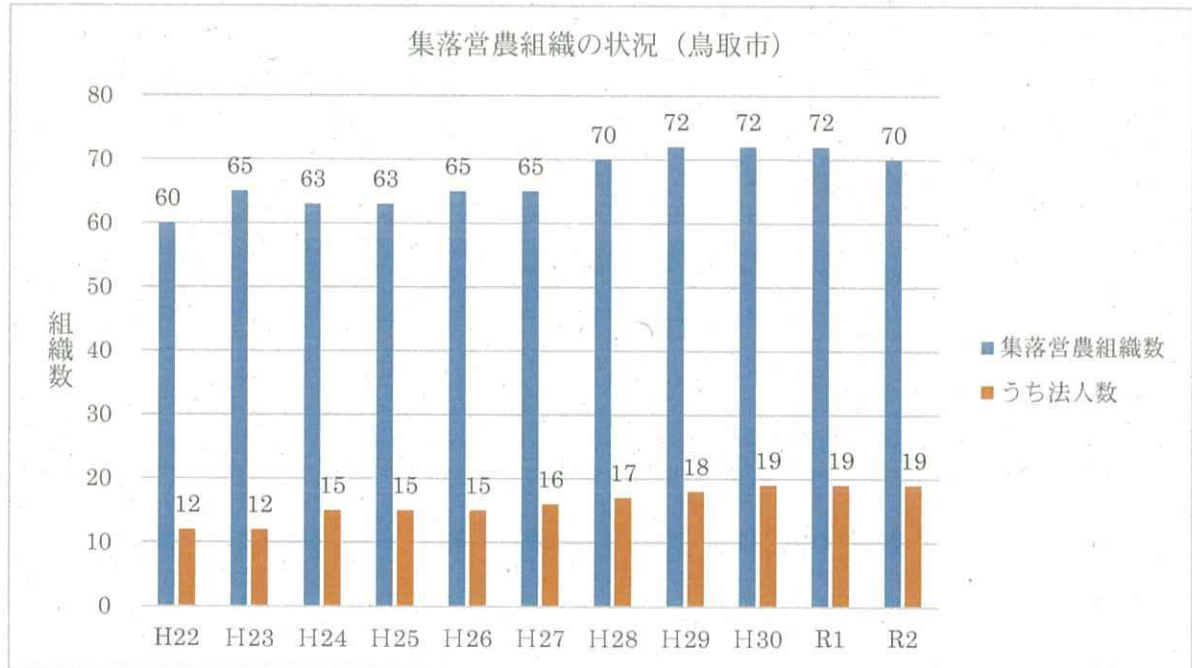
\*鳥取県経営支援課調べ(暦年集計)

\*法人への就職者数は平成21年度以前の調査データなし

## 6 集落営農組織数

県東部の集落営農組織数は近年横ばい傾向にある。

令和2年集落営農組織数は83（うち、鳥取市70、岩美町13）で、法人数は23（うち、鳥取市19、岩美町4）となっている。



#### IV 主な農畜産物の生産、販売状況 (※出典記載が無い場合はJA 鳥取いなば調べ)

##### 1 水稲

###### (1) 作付面積

令和2年度作付面積は令和元年度に比べわずかに増加した。



###### (2) 出荷数量 (JA出荷分のみ)

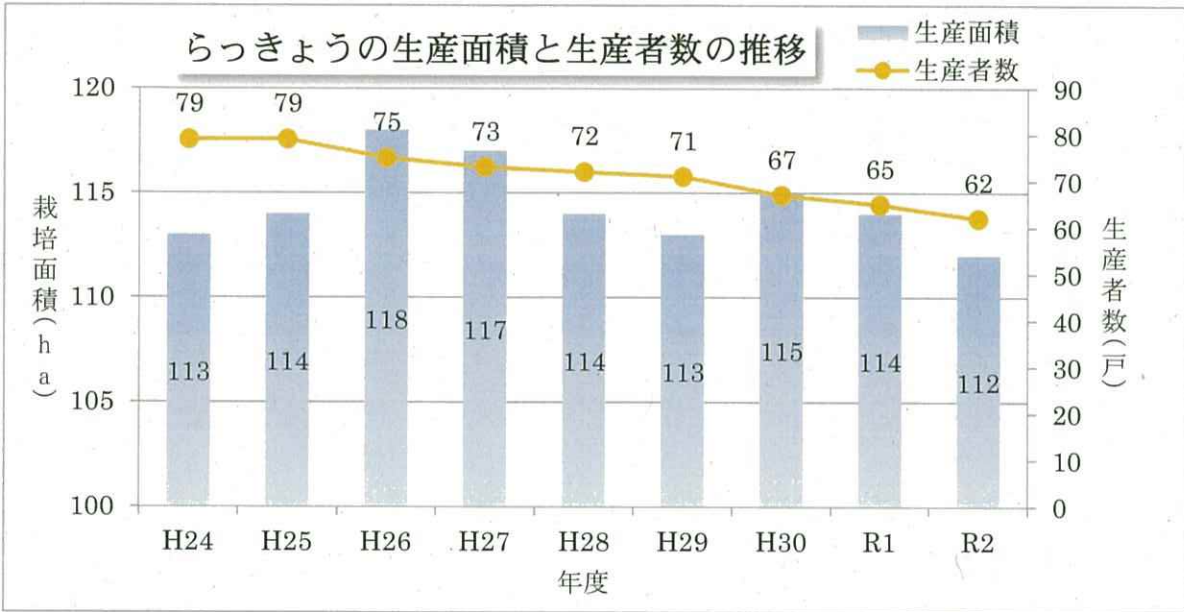
令和2年度は星空舞が増加し、それに応じて、コシヒカリなどの主要品種が減少した。またJAへの出荷量は前年よりやや増加した。



## 2 らっきょう

### (1) 栽培面積・生産者数

- ①鳥取市福部町で生産されている「砂丘らっきょう」は、県内の面積の約6割を占める。
- ②生産者数は年々減少しており、令和2年度の生産者は10年前より3割程度減少しているが、面積は110ha以上を確保し1戸当たりの栽培面積は増えている。



### (2) 出荷量・販売金額

令和2年産福部らっきょうの出荷量は前年比104%の1,700t、販売額は9億3千1百万円であった。



### (3) トピックス

平成28年3月に農林水産省より、鳥取市福部町内の鳥取砂丘に隣接した砂丘畑で生産したらっきょうを「鳥取砂丘らっきょう」、「ふくべ砂丘らっきょう」として国内で11件目の地理的表示 (GI) 登録された。また、国の産地パワーアップ事業を活用してらっきょうの加工施設が平成30年2月に竣工した。

令和元年度産地消費等優良活動表彰の表彰者が発表され、鳥取いなば農業協同組合福部らっきょう生産組合の活動が生産部門の農林水産大臣賞を受賞した。

### 3 白ねぎ

#### (1) 栽培面積・生産者数

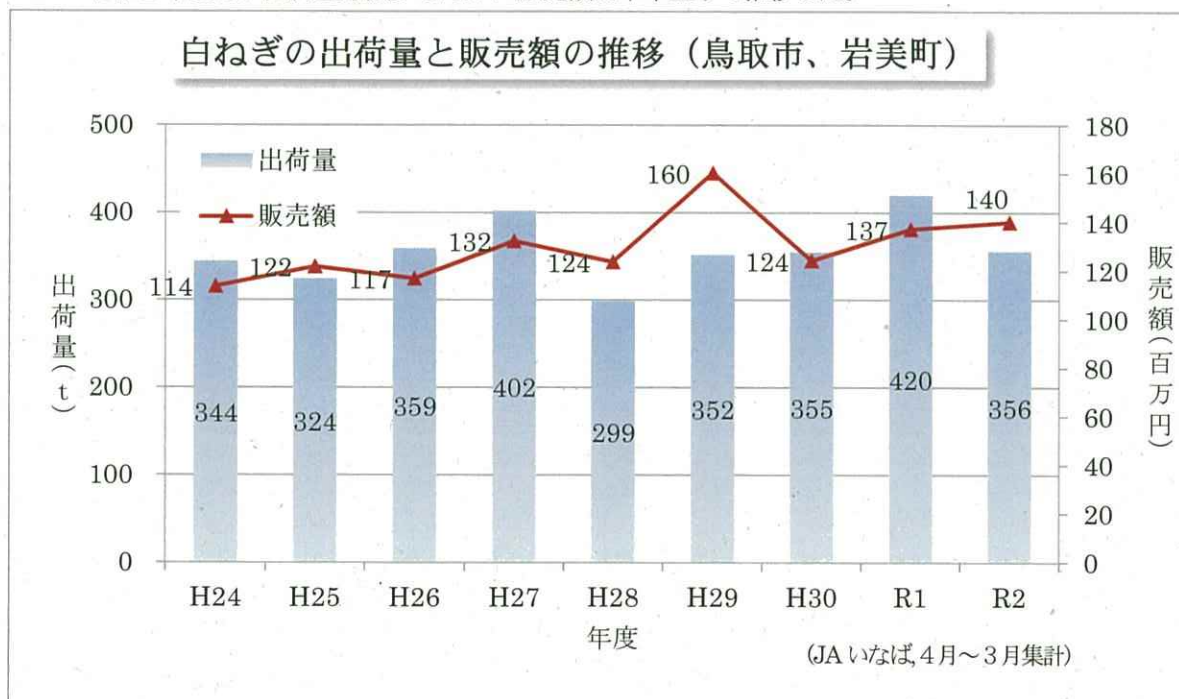
近年、生産者数は減少しているが、一戸当たりの規模拡大が進み令和2年度の面積は前年度と同等であった。

※平成25年度から「JA 鳥取いなば白ねぎ倍増プラン」を作成して事業に取り組み、育苗ハウスの増棟や移植機等の機械リースを実施中である。(令和元年度からJAの生産者数の集計方法が異なる)



#### (2) 出荷量・販売金額

令和2年度は、出荷量は減少したが、販売額は平年並みで推移した。





#### 4 アスパラガス

##### (1) 栽培面積・生産者数（八頭管内含む）

栽培面積は平成 22 年度以降、ほぼ毎年増加していたが、令和元年度に生産者数が減少し、令和 2 年度は面積が 8.0ha とやや減少した。（令和元年度から JA の生産者数の集計方法が異なる）



##### (2) 出荷量・販売金額（八頭管内含む）

出荷量、販売額ともに、平成 25 年度以降ほぼ毎年増加し、令和 2 年度は出荷量 36t、販売額 36 百万円となった。



##### (3) トピックス

らっきょう、白ねぎに次ぐ特産品としてアスパラガスを育成するため、平成 28 年 2 月に「JA 鳥取いなばアスパラガス振興プラン」を策定し、JA、市町、県とで連携して生産推進を図っている。

令和元年度から産地パワーアップ事業（鳥取型低コストハウスによる施設園芸等推進事業）を活用して、2 条雨よけハウス導入による産地形成を目指している。

## 5 梨

### (1) 栽培面積・生産者数(鳥取市、岩美町)

生産者数、栽培面積とも減少傾向が続いている。

(平成 29 年度のみ集計方法が異なり、JA 福部支店の系統外出荷が含まれている)



### (2) 出荷量・販売金額(鳥取市、岩美町)

出荷量は対前年比 76%と減少し、販売額は横ばいだった。



### (3) トピックス

現在、「二十世紀梨」が主流であるが、「新甘泉」を中心にジョイント栽培等による新品種の導入が進んでいる。

	H18~ H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
新品種 苗木本数	6,441	1,589	682	657	1,898	709	447	196	12,619
うち新甘泉	3,871	947	521	561	1,771	635	414	159	8,881

※JA 鳥取いなばが管内農家へ配布した本数

## 6 柿

### (1) 栽培面積・生産者数

生産者数、栽培面積とも減少傾向が続いている。



### (2) 出荷量・販売金額

出荷量は対前年比 94 に%減少し、販売額は 111%と増加した。



### (3) トピックス

現在、「富有」、「西条柿」が中心であるが、収量、品質、販売単価の高い新品種「輝太郎」の植栽を進めている。

	H21～H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	合計
輝太郎 苗木本数 (本)	2,577	619	713	502	562	431	382	273	6,059

※JA 鳥取いなばが管内農家へ配布した本数

## 7 乳用牛

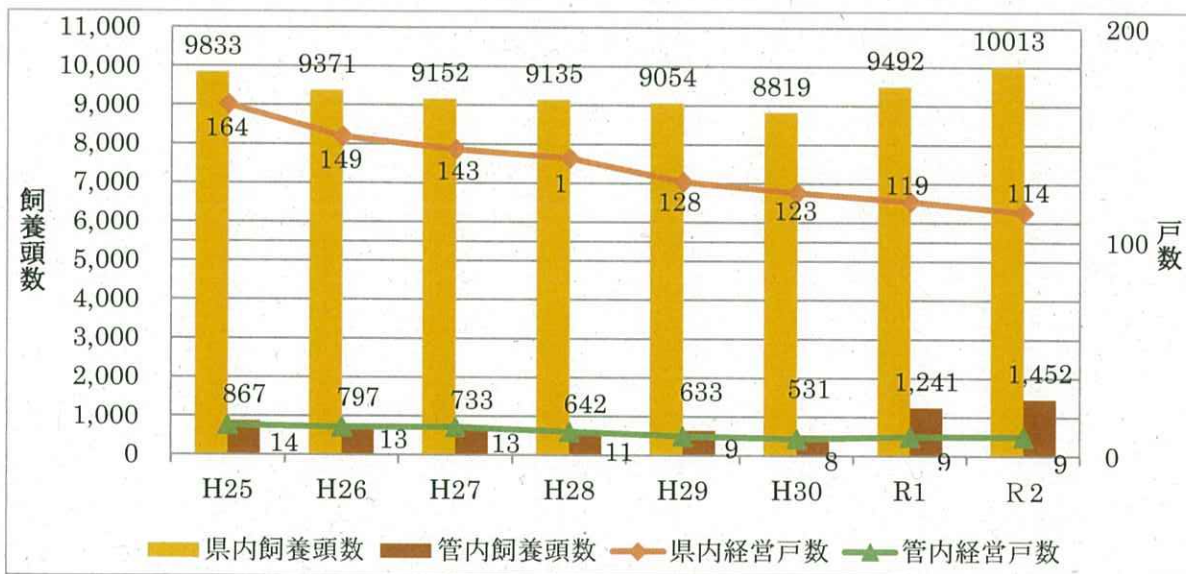
酪農経営においては、管内飼養頭数が221頭増加し、全県に占める割合は14.5%(13.1%)になった。

(( )内は令和元年度実績)

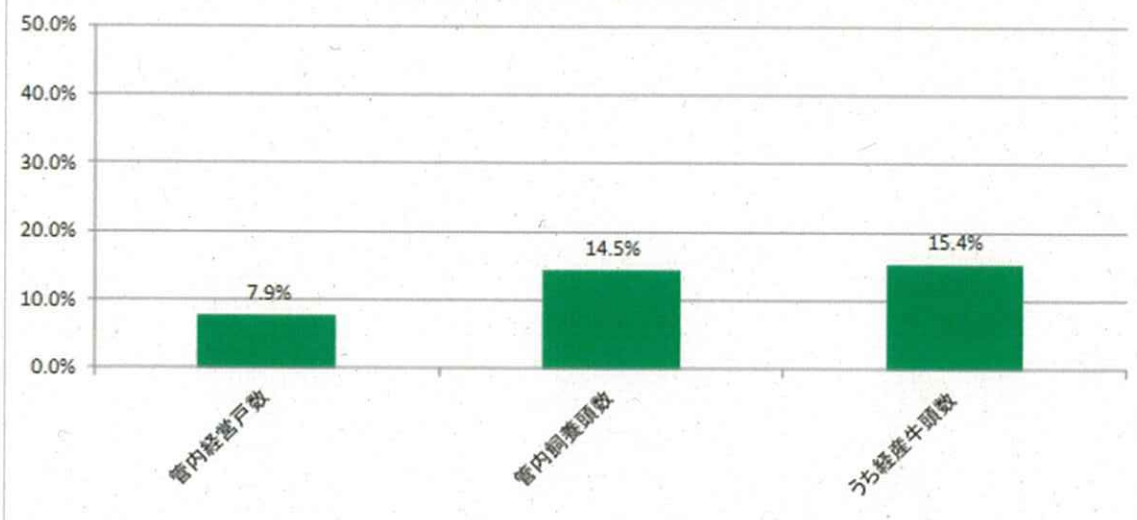
乳用牛										
(単位:戸、頭・羽、%)										
区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	前年比	県内占有率
管内経営戸数	14	13	13	11	9	8	9	9	100.0%	7.9%
管内飼養頭数	867	797	733	642	633	531	1,241	1,452	117.0%	14.5%
うち経産牛頭数	602	541	504	436	436	376	976	991	101.5%	15.4%
県内経営戸数	164	149	143	139	128	123	119	114	95.8%	
県内飼養頭数	9,833	9,371	9,152	9,135	9,054	8,819	9,492	10,013	105.5%	
うち経産牛頭数	6,623	6,298	6,144	6,063	5,936	5,877	6,331	6,418	101.4%	

資料: 県畜産課調べ  
※管内は鳥取市及び岩美町

## 乳用牛



## 県内占有率(R2乳用牛)

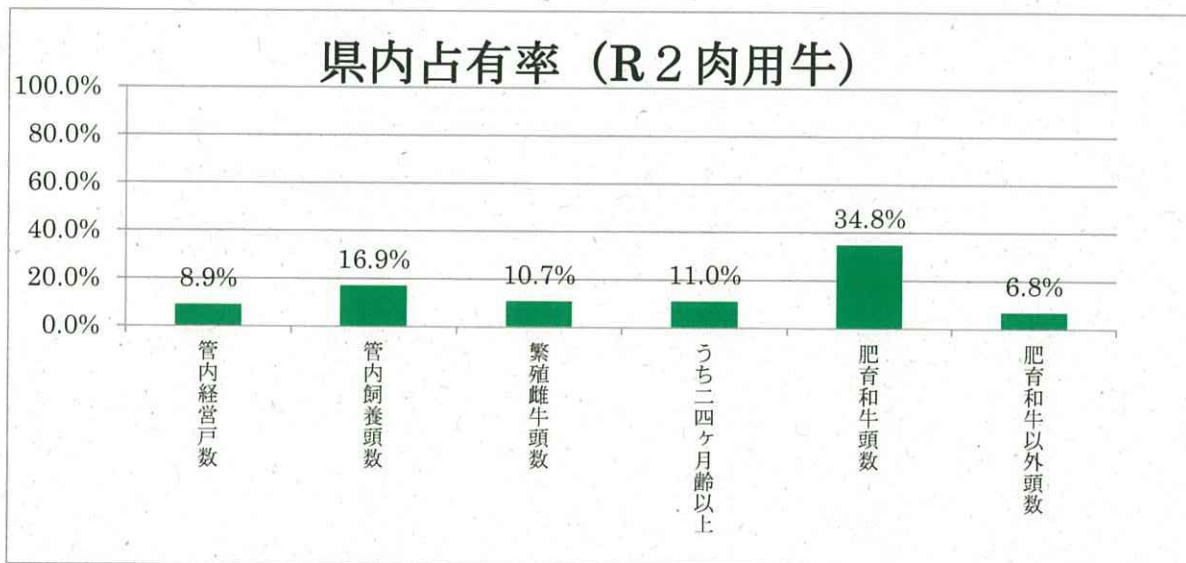
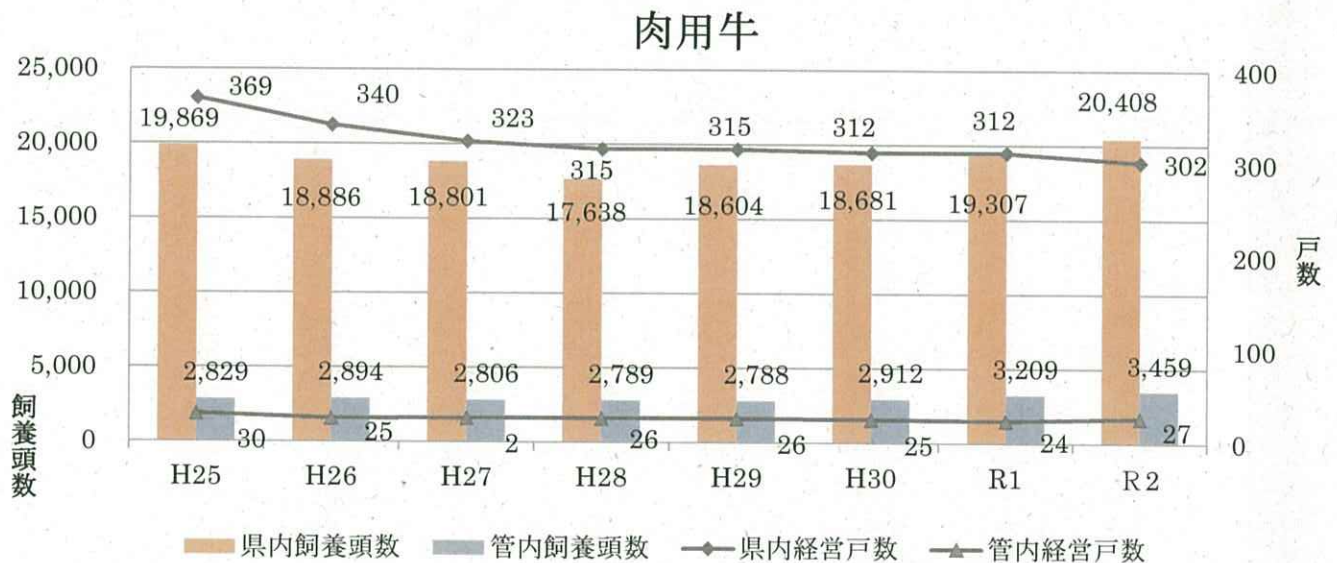


## 8 肉用牛

経営戸数は全県では10戸減少し302戸、管内は3戸増加し27戸となった。飼養頭数は、全県で微増し20,408頭(19,307頭)、管内は250頭増えて3,459頭(3,209頭)。繁殖雌牛頭数は近年県内で増加傾向にあり、496頭増加し5,773頭(5,277頭)、管内も140頭増え616頭(476頭)。( )内は令和元年度実績

肉用牛		(単位:戸・頭・羽、%)								
区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	前年比	県内占有率
管内経営戸数	30	25	26	26	26	25	24	27	112.5%	8.9%
管内飼養頭数	2,829	2,894	2,806	2,789	2,788	2,912	3,209	3,459	107.8%	16.9%
繁殖雌牛頭数	353	359	329	377	376	473	476	616	129.4%	10.7%
うち24ヶ月齢以上	250	288	273	264	263	338	326	400	122.7%	11.0%
肥育和牛頭数	1,854	2,024	1,849	1,832	1,832	1,934	2,237	2,292	102.5%	34.8%
肥育和牛以外頭数	622	511	628	580	580	505	496	551	111.1%	6.8%
県内経営戸数	369	340	323	315	315	312	312	302	96.8%	
県内飼養頭数	19,869	18,886	18,801	17,638	18,604	18,681	19,307	20,408	105.7%	
繁殖雌牛頭数	4,246	3,981	4,062	4,326	4,458	4,982	5,277	5,773	109.4%	
うち24ヶ月齢以上	2,559	2,452	2,592	2,648	2,698	3,072	3,323	3,644	109.7%	
肥育和牛頭数	6,626	6,570	5,991	5,753	6,339	6,220	6,463	6,581	101.8%	
肥育和牛以外頭数	8,997	8,335	8,593	7,559	7,813	7,485	7,567	8,054	106.4%	

資料: 県畜産課調べ  
※管内は鳥取市及び岩美町



## 9 豚

経営戸数は全県で2戸減少し18戸(20戸)、飼養頭数も減。管内戸数は増減なく、飼養頭数は416頭減少し、589頭(1,005頭)。( )内は令和元年度実績

### 豚

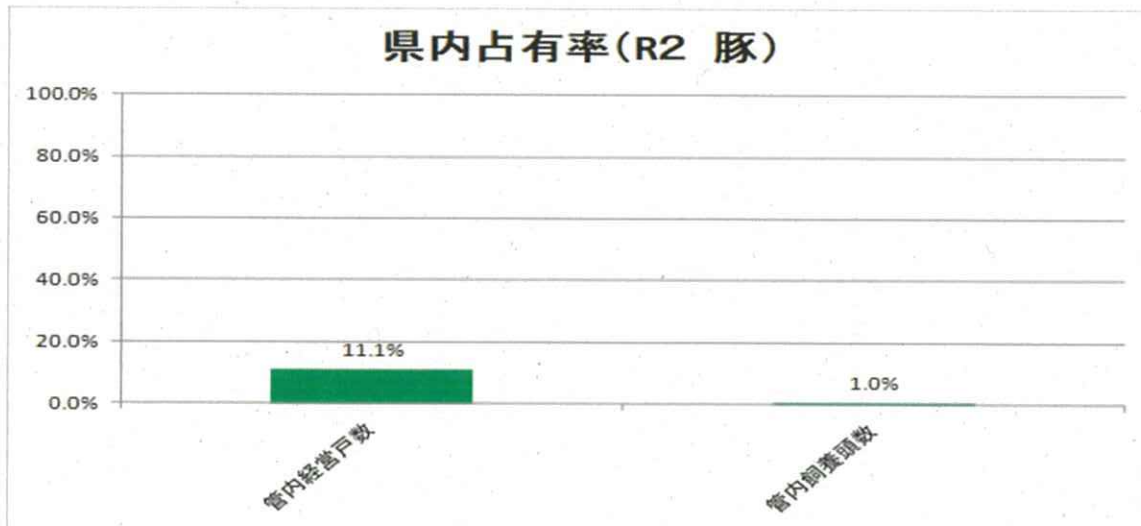


### 豚

(単位:戸、頭・羽、%)

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	前年比	県内占有率
管内経営戸数	3	2	2	2	2	2	2	2	100.0%	11.1%
管内飼養頭数	1,699	1,156	1,097	1,003	1,003	1,073	1,005	589	58.6%	1.0%
県内経営戸数	37	35	31	28	26	23	20	18	90.0%	
県内飼養頭数	72,285	67,630	66,097	67,154	68,641	64,393	65,461	58,541	89.4%	

資料:県畜産課調べ  
※管内は鳥取市及び岩美町



## 10 鶏

採卵経営においては、全県で増減無く飼養羽数は微減。管内では県内飼養採卵鶏の71%弱を占め、大規模経営体が目立つ。戸数は5戸(7戸)に減少し、飼養羽数は微減。

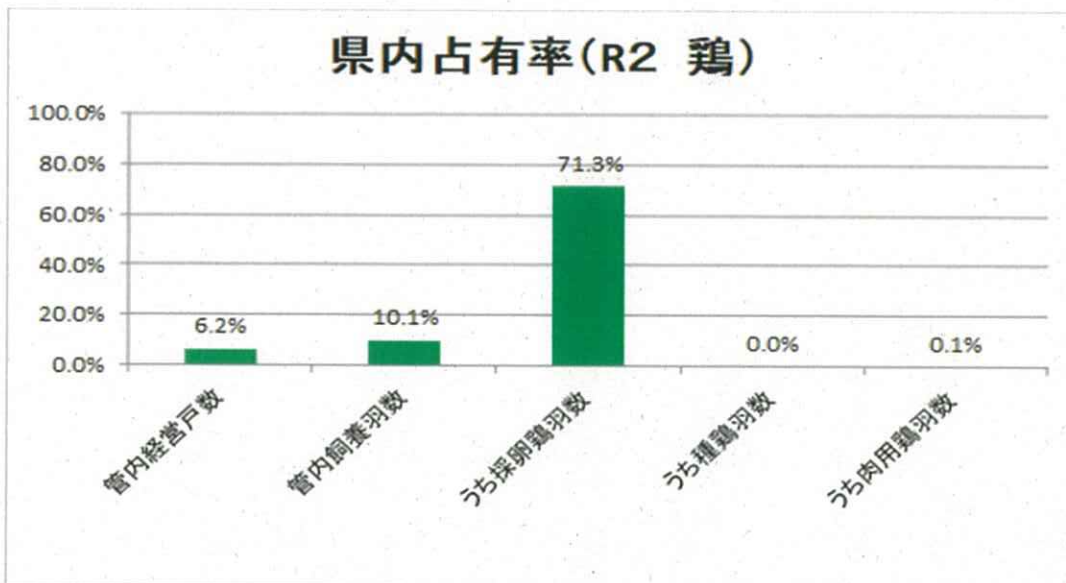
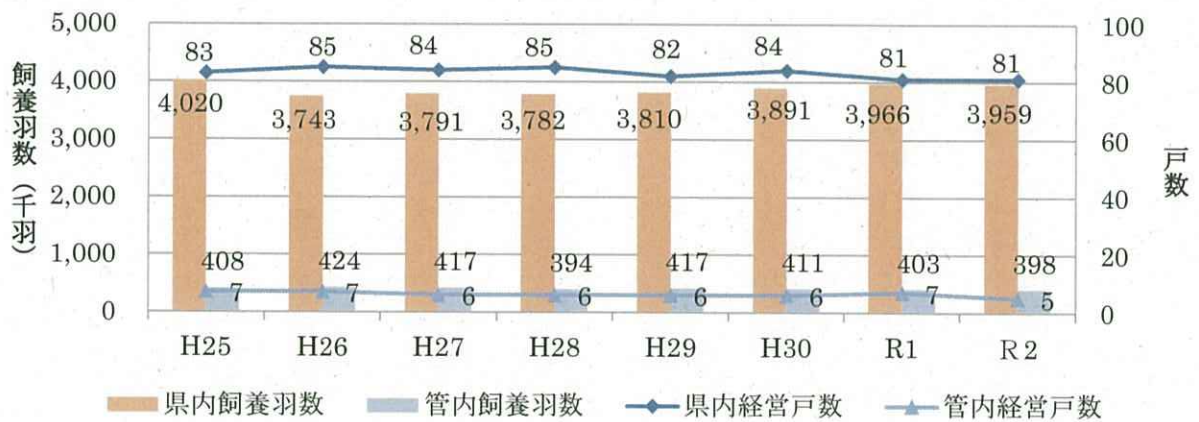
肉用鶏については、全県で4戸増加し、57戸(53戸)であり、飼養羽数は微増。管内は1戸で羽数は微増。( )内は令和元年度実績

(単位:戸、頭・羽、%)

区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	前年比	県内占有率
管内経営戸数	7	7	6	6	6	6	7	5	71.4%	6.2%
管内飼養頭数	407,811	423,740	416,690	393,899	416,590	410,896	403,043	398,214	98.8%	10.1%
うち採卵鶏羽数	406,013	420,780	408,690	392,002	414,693	408,417	400,564	395,362	98.7%	71.3%
うち種鶏羽数	0	0	0	0	0	0	0	0	-	0.0%
うち肉用鶏羽数	1,798	2,960	8,000	1,897	1,897	2,479	2,479	2,852	115.0%	0.1%
県内経営戸数	83	85	84	85	82	84	81	81	100.0%	
県内飼養頭数	4,020,286	3,743,239	3,791,418	3,781,726	3,809,934	3,890,963	3,965,956	3,959,263	99.8%	
うち採卵鶏羽数	599,084	615,799	603,936	589,137	565,052	562,488	560,874	554,543	98.9%	
うち種鶏羽数	145,597	143,866	143,881	146,639	146,760	147,465	135,769	108,909	80.2%	
うち肉用鶏羽数	3,275,605	2,983,574	3,043,601	3,045,950	3,098,122	3,181,010	3,269,313	3,295,811	100.8%	

資料: 県畜産課調べ  
※管内は鳥取市及び岩美町

## 鶏



**V 鳥獣害の状況** 農作物の被害金額は年により変動があるが、捕獲頭数は主な有害鳥獣であるイノシシ・シカが上位を占めている。令和2年度の捕獲頭数はイノシシが近年で2番目、シカが過去最多となり、被害金額はイノシシ・シカとも多い傾向で推移しているため今後も農作物被害の増加が懸念される。

1 農産物被害金額とその主な内訳

(単位：千円)

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
被害額	30,753	18,647	13,006	18,663	31,476	28,447	31,618	23,173	34,615	21,901	36,918
主な鳥獣種	イノシシ (54%)	16,696 (75%)	10,601 (82%)	15,984 (86%)	11,011 (35%)	22,594 (79%)	26,893 (85%)	20,753 (90%)	31,282 (90%)	18,182 (83%)	30,632 (83%)
	シカ	17	88	6	139	346	895	783	1,603	879	975
	クマ	3,978	326	1,392	0	15,566	870	2,132	320	1,212	1,132
	ヌートリア	76	24	0	55	138	39	148	39	99	22
	カラス	1,406	3,190	360	1,821	2,469	493	754	458	493	150

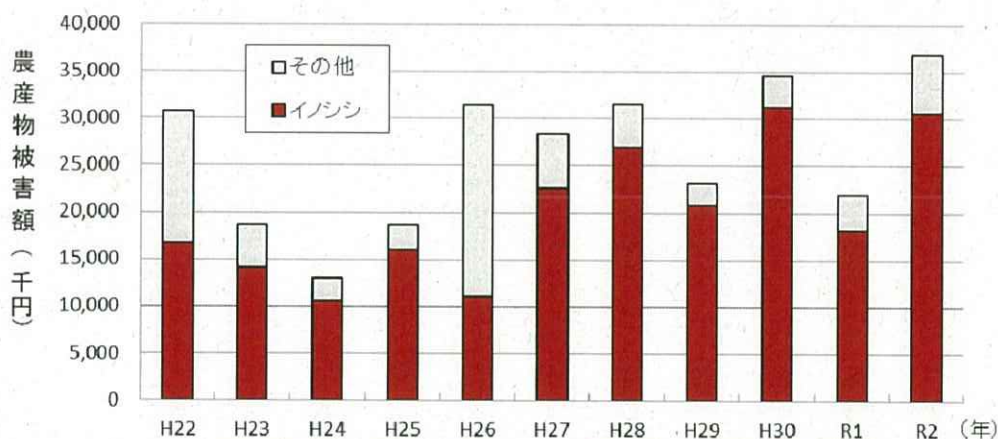


図1 東部管内 (鳥取市、岩美町) における野生鳥獣による農産物被害額の推移

2 主な鳥獣の捕獲実績 (捕獲頭数)

(単位：頭、羽)

鳥獣種	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
イノシシ	2,092	1,530	1,692	2,080	2,411	2,936	3,788	1,418	3,136	4,331	4,112
シカ	481	587	632	800	867	980	828	971	1,576	2,422	2,987
ヌートリア	1,126	957	641	698	551	369	534	418	193	610	501
アライグマ	27	20	16	30	43	17	31	21	22	6	19
カラス	639	239	410	355	554	648	393	384	397	460	307

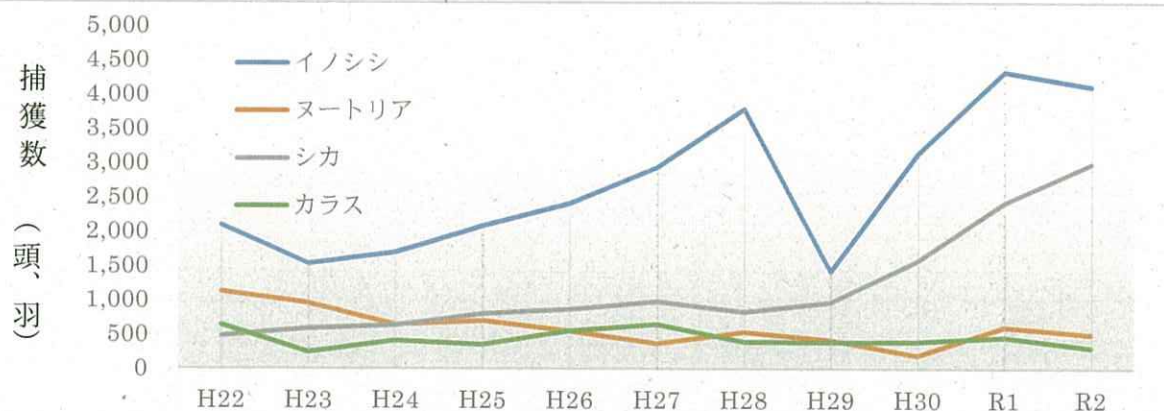


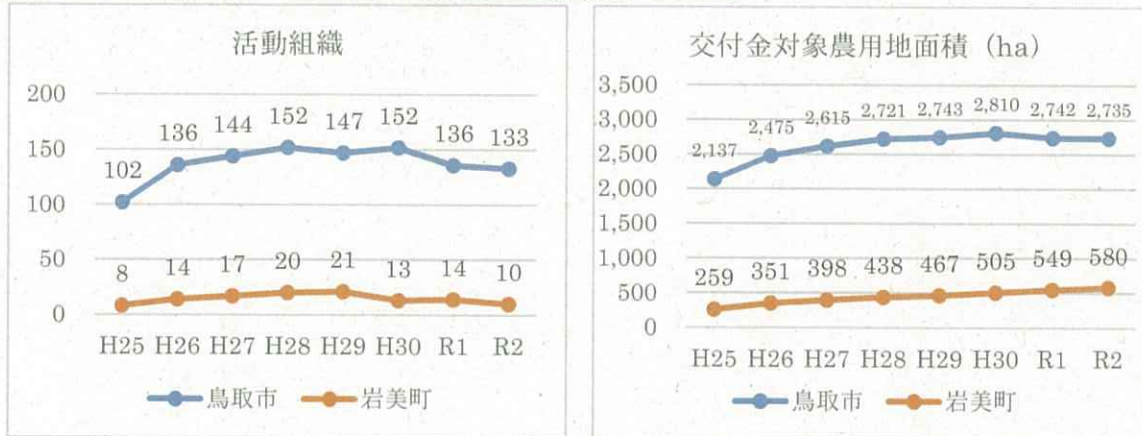
図2 東部管内 (鳥取市、岩美町) における野生鳥獣による捕獲実績の推移



## VI 日本型直接支払制度の取り組み概要

### 1 多面的機能支払交付金（農地維持）

活動組織数及び活動組織取り組み面積は令和2年度は減となった。活動組織取り組み面積は農振農用地面積の54.2%を占める。（東部地区の農振農用地面積は、6,116ha）



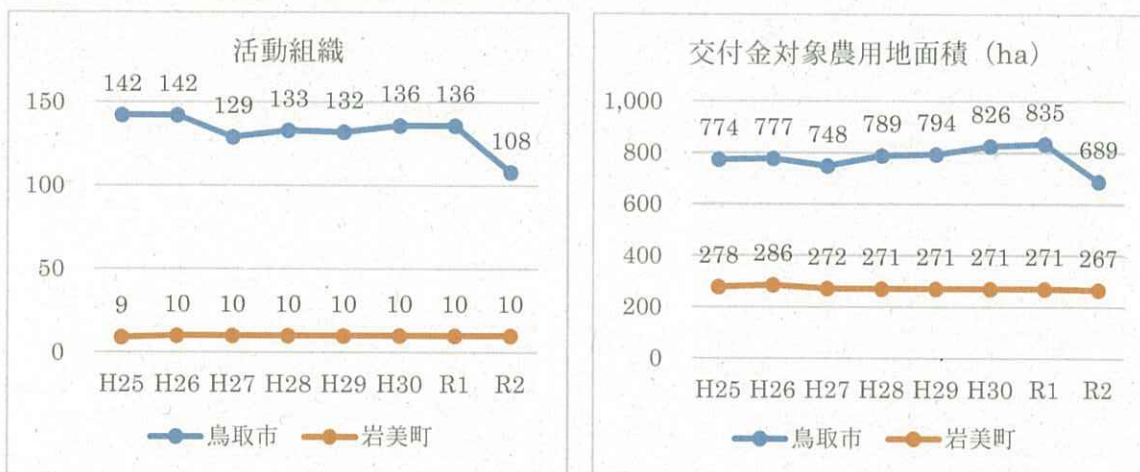
令和2年度 農地・水保全課調べ

農振農用地面積については、経営支援課の確保すべき農用地等の面積の目標達成状況に関する調査（令和元年12月31日現在）

なお、農地水保全管理支払交付金（共同活動支援交付金、向上活動支援交付金）は、平成26年度より多面的機能支払（農地維持支払交付金、資源向上支払交付金）に移行。

### 2 中山間地域等直接支払交付金

活動組織数及び活動組織取り組み面積は大きく減少した。活動組織取り組み面積は農振農用地面積の15.6%を占める。（東部地区の農振農用地面積は、6,116ha）

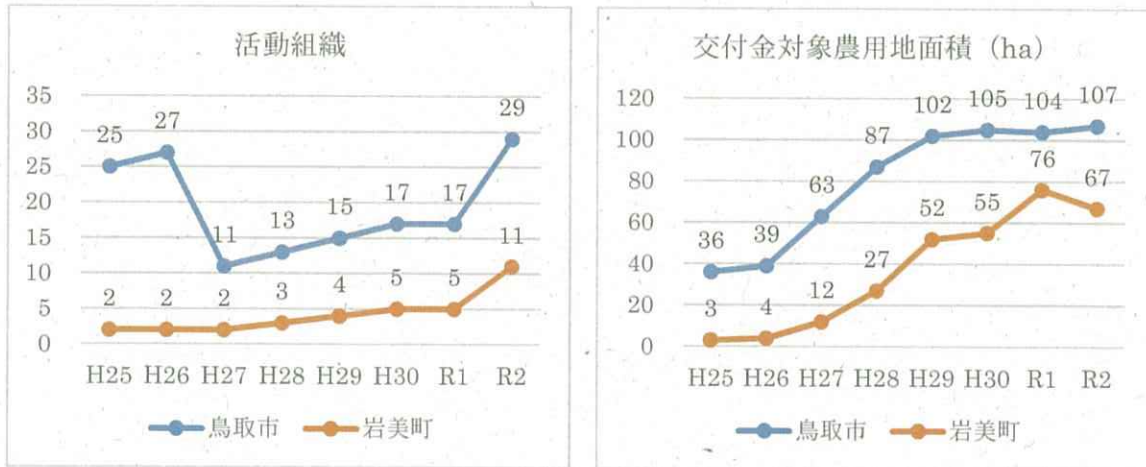


令和2年度 農地・水保全課調べ

農振農用地面積については、経営支援課の確保すべき農用地等の面積の目標達成状況に関する調査（令和元年12月31日現在）

### 3 環境保全型農業直接支払交付金

活動組織数及び活動組織取り組み面積は年々増加の傾向にある。活動組織取り組み面積は農振農用地面積の2.8%を占める。(東部地区の農振農用地面積は、6,116ha)



令和2年度 鳥取市、岩美町の実績報告

農振農用地面積については、経営支援課の確保すべき農用地等の面積の目標達成状況に関する調査  
(令和元年12月31日現在)

(注) 平成27年度から、交付金支援対象が農業者個人から農業者の組織する団体等へ変更

## VII 集落営農法人一覧

令和3年3月現在

NO	名称	市町	設立年月	組合員数 (戸)
1	(農) 良田生産組合	鳥取市	H11. 6	10
2	(農) 邑美水稻生産組合	鳥取市	H11	106
3	(農) ラブグリーン細見	鳥取市	H14. 2	17
4	(農) 大谷生産組合	岩美町	H17. 3	141
5	(農) 北村生産組合	鳥取市	H17. 11	23
6	(農) 向国安生産組合	鳥取市	H19. 2	12
7	(農) ファームかみだん	鳥取市	H19. 3	19
8	(農) 朝月農業生産組合	鳥取市	H19. 3	42
9	(農) らくあい農場高路	鳥取市	H19. 4	18
10	(農) たにひとつぎ	鳥取市河原町	H19. 5	35
11	(農) 因幡白兔	鳥取市	H19. 10	60
12	(農) 小別所生産組合	鳥取市鹿野町	H20. 3	29
13	(農) 山根営農組合	鳥取市国府町	H20. 4	10
14	(農) 小田みなみ	岩美町	H21. 3	26
15	(農) ファームなかいいち	鳥取市河原町	H23. 4	21
16	(農) 土居生産組合	鳥取市気高町	H23. 4	11
17	(農) 日光農産	鳥取市気高町	H23. 12	34
18	(農) ドリームファーム二上	岩美町	H27. 1	62
19	(農) まごころ農場ひろせ	鳥取市国府町	H27. 4	22
20	(農) 白地農業生産管理組合	岩美町	H27. 9	54
21	(農) ふしの	鳥取市	H28. 5	53
22	(農) 河内こわらび	鳥取市	H29. 5	19
23	(農) やまね	鳥取市青谷町	H30. 9	10